

令和2年度 福井県立美方高等学校 学校評価書

項目	重点目標	具体的取り組み	成果と課題	改善策・向上策
<p style="text-align: center;">中高一貫教育</p>	<p>・中高一貫教育を中心とした中高の連携をさらに深める。</p> <p>・連携生徒の学校生活の充実を図る。</p>	<p>① 中高一貫4校事務局会議・各教科会・研修会の開催と、各部活動顧問間での連携を通して、中高の連携をいっそう深める。</p>	<p>事務局員の共通理解は100%(昨年度91%)となった。前回は上回った理由として、新たな取り組みを検討する際に事務局員が数回集まり議論を重ねることができたことが大きい。事務局会議は昨年同様5回開催した。連携3校との協議検討、振り返りも含めこの程度の開催が妥当であろう。また、全教職員の共通理解は100%(昨年度82%)であり、目標(85%以上)指数を上回った。しかし、事務局会議の他の進路部会、教科会等の担当ごとの具体的運営ができず、ほとんど事務局が運営した点に課題が残る。</p> <p>研究委員会は、今年度も6月に両町教育長、両町小学校代表校長、高校教育課担当、嶺南教育事務所担当者等に出席をいただき、取り組み・予算面等について理解をいただくことができた。3月の第2回は昨年同様開催せず資料配付のみとした。</p> <p>部活動では、コロナ禍で交流回数は少なかったがバレー部が休日の美方高校での合同練習をしたり剣道部が中学校へ出向いての練習を行ったり、それぞれの部活動で連携を進めることができた。文化部では三方中学校の合唱コンクールで吹奏楽部が招待演奏をし、好評を博した。</p>	<p>中高一貫教育への理解度が上がり、全職員で取り組むという意識も高まっていると感じる。今後も、年度初めの研修で理解を求めるとともに年間を通して各取り組みや行事を学校全体に周知やアピールをしていく。そして中高一貫教育の取り組みを学校全体のものにして高校の魅力化の大きな目玉にしていく。R3年度連携クラス生徒の本校への入学割合は26/42名(62%)である。H30年度は25/37名(68%)、H31年度は25/44名(57%)、R2年度は18/52名(34%)と減少の一途をたどったが、R3年度は少し持ち直した。より多くの連携生徒が美方高校に魅力を持つために、タブレット等を活用した「個別指導」や進路選択につなげる「SDGsを意識した探究学習」の強化を図る。そして、高校入学後の学力上位層の生徒へ充実した学力向上対策、中位層や下位層への指導の支援を行いながら個別最適化授業の構築を目指す。</p> <p>次に今年度の新規取り組みなどを挙げる。①英語・数学の中3乗り入れ授業を2月まで延長し受検後の中3連携生徒の学力保障を行う②「高2探究学習発表会」への連携生徒の参加③中3連携生徒への特別授業の開催④中断していたスパーティーチャー事業(県外の中高一貫教育校の教員に中学連携生を対象に授業をしてもらうもの)の再開⑤中2出張授業と中2保護者対象説明会などである。⑤はすべて10月中旬に3つの連携中学校で実施した。連携クラス校内選考の前にこうした授業や説明会を行うことで中2の生徒も保護者も連携クラス入級を考えるよい機会となった。今後もこの時期に実施していく方針である。さらに次年度は中3連携生が学習や交流をする機会を、タブレットの活用等を通して実現していきたい。</p>
	<p>② 連携生徒の授業、部活動、学校行事への参加の充実を図る。</p>	<p>連携生徒の授業理解度は92%で、目標(85%以上)指数を上回り、昨年度の89%を上回った。学校全体では83%だった。あまり理解できていないと回答した生徒が1年4名、2年0名、3年1名、ほとんど理解できていないと回答した生徒はいなかった。1年生での理解度が低い点については今後個別の支援をしていくことで解消が期待されるが、日頃から丁寧な学習指導を各教科で継続していく必要がある。</p> <p>進路目標を持つことができた生徒は85%(昨年度83%)(学校全体80%)、部活動の積極的な取り組み88%(昨年度98%)(学校全体83%)であった。進路への目標を持つ生徒の割合は増えたが、部活動の積極的取組の割合は10ポイント下がった。文武両道を目指してはいるものの、今年度はコロナによる主要大会の中止によって目標や意欲を喪失した生徒が増えた可能性がある。また、行事への意欲的参加は97%(昨年度97%)(学校全体89%)であり、昨年同様、学校行事に対しても積極的に取り組んでいることが分かる。</p>	<p>授業理解度で「あまり理解できない」という生徒が1年生に4名、3年生に1名いる。内訳は1年2ホームで2名、3ホームで2名、3年2ホームで1名である。学力上位層の生徒への指導を充実させることが急務であるが、一般生徒と同様、学習理解が困難になってきている中位、下位層への丁寧な指導、手厚い指導も同時に行い、学校全体として学力向上対策をしていく必要がある。</p> <p>部活動への積極的な取り組みは昨年比10ポイント低下した。コロナ禍で主要大会が中止になるなどで目標を失った生徒も多いと考えられるが、この数字の低下を機会に、量から質への転換や自主的な活動の重視、コーチング的な指導などこれまでの部活動のあり方を見直していきたい。逆に進路への目標を持つ生徒の割合が増加した。学校祭などの行事への積極的参加の割合も高い。これは連携生徒が自らの夢を持ち、美方高校のリーダー的な存在として活躍していこうとする表れである。地域のリーダーを育成するという中高一貫教育の理念を実現すべく生徒の主体的な活動や進路実現を支援し、地域を活性化できる人材を育てていきたい。</p>	
<p style="text-align: center;">教育課程 学習指導</p>	<p>・生徒が主体となる授業を工夫し、学習意欲を高め、学力向上を図る。</p>	<p>① 教科会を中心とした授業研究や生徒による授業評価を通して授業改善を図る。</p>	<p>公開授業を行ったり、教科研究会に参加したり、授業を参観したりした教員の割合は100%で、目標(80%)を上回った。5月には休校の中で動画作成・配信やZOOMによる双方向通信の方法を研究した。2学期には公開授業を実施し、外部講師を招いたり、外部の中高教員に来ていただいたりして授業研究を行った。</p> <p>授業内容を「ほとんど」または「おおむね」理解できているとした生徒は83%、昨年と同率であり、目標(80%)を達成した。全学年で「あまり理解できていない」が73名、「ほとんど理解できていない」が5名おり(昨年とほぼ同数)、成績不振者への指導を今後も継続することが重要である。また、習熟度の高い生徒をさらに伸ばす指導も必要である。</p>	<p>「対話的で深い学び」や新しい大学入試に関する研究をさらに進め、効果的に学習内容、学習方法が提示できるよう、各教科、進路指導部等との連携を進めていきたい。外部講師を招聘しての授業研究も継続していく。また、新学習指導要領で求められている教科横断型の授業を模索して教育効果をさらに上げていくようにしたい。</p> <p>授業内容の理解度が低い生徒も相当数いるので、各教科担任が個別のアンケート調査をするなど実態を把握して個別に指導を行う必要がある。また、授業でのタブレット活用法を教科で研究し、一人ひとりの能力に応じた課題提示の方法を研究する。そうすることで習熟度の大きく異なる集団においても効果が上げられると考える。</p>
	<p>・家庭学習の充実を図る。</p>	<p>② 各教科、各学年と連携し、家庭学習の質と量の改善を図る。</p>	<p>各教科の長期休業中の課題を「ほとんど」または「おおむね」提出していると回答した生徒は94%で、昨年とほぼ同率であった。例年同様、夏休み明けの一斉課題回収を教務主体で実施し、未提出だった者にはその後完了するまで個別に指導にあたった。冬休み明けは未提出者はほとんどなくなった。一方、教員が家庭学習の方法に関して必要とされる指導を、「十分に」、または「おおむね」しているとした割合は89%で、昨年よりやや増加し、また、目標(80%)も達成できた。</p> <p>6月と10月に行った授業外学習時間調査では、学校全体の平均で1日あたり100分(6月)、88分(10月)であった。また、70%を目標とした1日90分を達成した生徒の割合は、44%(6月)、35%(10月)であった。6月は1日の平均学習時間、1日90分を達成した割合とも昨年より大幅に増加した。しかし10月は6月よりも減少した。ただ、それでも昨年を上回っている。1年生の学習時間の多さが増加の大きな要因であった。2年生は横ばいであり、2年生の授業外学習時間の増加が課題である。</p>	<p>課題の提出率は高いのでこのまま継続できるように日々指導していく。ただ、提出はするものの答えを写しているだけという様子も散見されるので、授業で小テストを取り入れるなどして確認する必要がある。課題の量に関しては教室にホワイトボードを設置して授業のたびに記入するようにしたので、教科間の調整が容易になった。また内容の充実に関しては、生徒が自らの計画で行う自主的な学習の充実を今後の重点目標にしていきたい。</p> <p>2年生の学習時間が少ないことに関しては、この1年間「探究」に熱心に取り組むことで学習意欲の喚起ができるのではないかと見守ってきた。また教科によっては毎日、意欲を削がない分量の課題を与えて継続した学習態度の育成に努めたり、授業でタブレットを利用して理解を助けたりしてきた。その成果か、模擬試験において、11月は7月に比べると上向きになっており、今後の伸びも期待できる。生徒手帳「MIKATA DIARY」を活用して目標や計画を立て、時間の自己管理ができるように指導を継続していくことも必要である。</p>

令和2年度 福井県立美方高等学校 学校評価書

項目	重点目標	具体的取り組み	成果と課題	改善策・向上策
生徒指導	<p>・容儀に関する指導を中心として、基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>注:「容儀」礼儀作法にかなった態度やその姿のこ。身だしなみや言葉遣い、挨拶など、ルールやマナーに則った外見と振る舞いをさす。</p>	<p>① 定期的な容儀指導を行うとともに、時間管理の習慣作りと挨拶の励行に努めさせる。</p>	<p>基本的な生活習慣のうち、規則正しい生活を送れているかという点について、「送っている」または「おおむね送っている」とする割合が、教職員から生徒を見た場合は91%(昨年比2%増)、生徒が自分を評価した場合は84%(増減なし)、保護者から生徒を見た場合は73%(昨年比2%増)となった(目標はいずれも80%)。保護者から見た割合が、昨年同様、目標を達成していない。これは、不規則な家庭生活などを反映しての数字であるように思われる。その原因の1つにスマホの影響があるように感じられる。今後も、スマホの正しい使い方などを粘り強く指導していく必要がある。</p> <p>容儀面に関しては、生徒自身が校則やマナーを「守っている」または「おおむね守っている」とする割合は、83%(増減なし)となり、目標の90%を下回る結果となった。教職員については97%(昨年比28%増)と、目標の80%を大きく上回る結果となった。これは指導部の服装指導の取組と、その取組に全教職員が共通理解を示し、真摯に指導した結果だと言える。保護者は97%(昨年比1%増)と、昨年同様高い数値を示した。生徒と保護者とのギャップについては両者の意識改革と教職員の根強い生徒指導が必要であると感じる。</p>	<p>時間を守り規則正しい生活を送るという点に関して、保護者が子どもを評価したときの数値が、目標に達していない。その実態を把握し、起床・就寝・家庭学習・携帯スマホ使用の時間に留意して「自主的な時間管理」という観点で改善を呼びかけていきたい。また、教職員から生徒を評価した数値が2%増となった。これは、生徒手帳「MIKATA DIARY」の有効活用や、朝のSTとコロナ対応における毎朝の検温の効果があるのではないかと考えられる。さらに、担任や学年会、部活動顧問との連携を密にし継続できるように努力していきたい。また、遅刻撲滅に向けて、規則正しい生活を送る呼びかけや指導を促したい。遅刻の回数が多い特定の生徒に対しては、生活習慣の改善を図る指導をよりきめ細かく行いたい。</p> <p>容儀面に関しては、教職員と保護者の数値は目標を達成しているが、生徒は達成していない。これは、朝、家を出るときはきちんとしているが、校内では乱れている可能性がある。校内での指導をさらに徹底していく必要がある。生徒の容儀に関する意識は、やや向上してきたが、まだまだ甘いことには変わりはない。容儀指導や学年別朝指導、指導部による登校時の服装指導を強化し、粘り強く指導していきたい。また保護者については、毎学期の保護者懇談会を通して、生徒の実態および本校の校則について正しく理解してもらえよう努めていきたい。</p>
	<p>・学校行事や部活動を推進する。</p>	<p>② 学校行事や部活動に積極的に取り組ませる。</p>	<p>部活動加入率は1年生が90%を上回り、全体では86%(含む兼部)となった。3年生の回答が79%(7月は89%)であり、引退した生徒が「加入していない」で回答した可能性がある。7月の部活動登録時点で全体では90%を上回っていた。生徒の部活動に対する姿勢は、「積極的」、または「おおむね積極的」に活動している割合が83%(1%減)、保護者の部活動に対する満足度は「満足」、または「おおむね満足」とする割合が90%(1%増)となり、部活動に関しては、目標の80%を達成できている。生徒の満足度を向上させることが今後の課題である。</p> <p>学校行事に関しては、「満足している」、または「おおむね満足している」生徒が、89%(増減なし)と、目標の90%をやや下回った。この項目は、例年、高い割合で推移しており、学校祭や生徒会行事など生徒会を中心とした行事への満足度は高いといえるが、低下させないような工夫が必要となってくる。</p>	<p>部活動加入率を正しく示すために、引退した3年生の記入の仕方についてアンケートの前に説明が必要である。部活動や学校行事に対する取組の姿勢やその満足度は、生徒、保護者共に、おおむね良好な結果が出ている。部活動に対する満足度は大会等での成績だけでなく、日常の活動から得られる達成感・充実感によるところも大きい。生徒の人格形成に資するという目的を常に念頭におき、質の高い部活動が日常的に行われることを今後も目標としたい。また、今後も各部の活動方針や活動内容に対して、保護者の理解が常に得られるよう留意したい。</p> <p>学校行事に関する生徒の満足度は高い数値を維持しているが、やや減少傾向にある。充実した学校行事が展開できるように、さらに生徒会活動を中心に盛り上げていきたい。</p>
教育相談	<p>・学校行事や日々の活動を通して生徒の気持ちを理解する。</p>	<p>① 快適度・いじめアンケートを生徒理解に役立てる。</p>	<p>「役立っている」・「おおむね役立っている」を合わせて今年度は94%であった。目標の80%を大きく上回っており、アンケートの有意性が認められ、また生徒の内面を知る手立てとして役立っていることがわかる。今後も生徒の実態がより明らかになるよう工夫をしていきたいと思う。</p>	<p>生徒の内面や状況の把握をより確実にするために質問項目を工夫し定期的に実施していきたい。</p>
	<p>・生徒の悩みを受け止め、迅速で適切な対応を行う。</p>	<p>③ 「面接週間」を生徒理解に役立てる。</p>	<p>「役立っている」・「おおむね役立っている」を合わせて97%となり、今年度も目標の80%を上回る結果が得られている。多くの労力を必要とするが、直接生徒と話ができる有効な手段であることから次年度も面接時間や期間を確保し、実施したい。</p>	<p>面接の有効性は担任にも広く認められている。次年度も効果的な面接が実施できるよう面接週間を計画することが重要である。</p>

令和2年度 福井県立美方高等学校 学校評価書

項目	重点目標	具体的取り組み	成果と課題	改善策・向上策
進路指導	<p>・キャリア教育を推進し、明確な進路目標を持たせ、個々の目標に応じた進路実現に努めさせる。</p>	<p>① 職業講話、進路説明会等の進路行事を通じて、職業観の育成と進路目標の明確化を図り、課外等の全体指導及び個別指導を充実させる。</p>	<p>担任のうち、「ホームの80%以上の生徒に学年に応じた進路目標を持たせることができた」と答えた割合は92%（目標85%）であった。担任による初回の個人面談を1学期開始すぐに設定して3年目になる。担任が早期に生徒の希望を把握し指導ができていたものとする。一方で、生徒のうち「明確な進路目標を持つことができた」または「明確ではないが進路目標を持つことができた」と答えた割合は全体の80%（目標85%）であった（1年69%、2年74%）。保護者のうち、子どもが「明確な進路目標を持っている」または「明確ではないが進路目標を持っている」と答えた割合は全体の75%（目標85%）であった。どちらも目標を下回った。1、2年生でまだ迷っている生徒が多く、時間をかけて進路目標をさがそうとしている様子が見られるが、教員と生徒、保護者の間で意識のずれがある。</p> <p>土曜学習会や夏期課外及び冬期課外について、その内容や回数が「適切」または「おおむね適切」だったと回答した教職員の割合は91%で、目標（85%）を上回った。また、学習会や課外に「積極的に」または「おおむね積極的に」参加したと答えた生徒の割合は92%、保護者の割合も92%で、どちらも目標（90%）を上回った。課題となっていた2年生普通科の課外の持ち方について、12月から進路別の講座を組むことで教員生徒ともに学習内容が明確になり、積極性も増したと考えられる。</p> <p>推薦入試や2次試験等への対策として、個別指導を「きめ細かく十分に」、または「おおむね十分に」行ったとする教職員は94%（目標90%）であった。また、進路実現についての本校の取り組みについて、「きめ細かく十分に」または「おおむね十分に」行われていると考える3年生保護者の割合は94%（目標90%）であった。進路実現に対して「積極的に」または「おおむね積極的に」取り組んだ3年生の割合は87%であった（目標90%）。個別指導を例年より早めて6月から実施したが、目標をやや下回った。コロナ禍で学校開始が約2ヶ月遅れたことと、先行きが不透明なため早期に進路先を決めねばとの全国的な動向も影響したものと思われる。</p>	<p>1、2年生の4人に1人以上の生徒が進路目標を持っていないことに対して、教員全体で問題意識を持つ必要がある。生徒と関わる際に意識して進路の話題を出したり悩みを聞いたりすることに努める。新入試制度に対しても授業で対策を充実させたり、模擬試験の解説を丁寧に行ったりすることで対応していく。主体的な学びが求められることに対し、探究活動や進路行事、大学主催の公開講座、検定の取得等、これまでも増して積極的に参加するよう働きかけていく。</p> <p>進路相談の際、今年度あまりできなかった、副担任や学年主任等による面談も検討していく。</p> <p>2年普通科の課外について、生徒の実態を踏まえ今年度同様に進路別での実施を検討する。</p> <p>今年度から6月より始めた、3年生への個別指導を来年度も高校総体後の6月から実施していく。</p> <p>来年度以降、志望理由書の重要性がますます大きくなるので、教員対象の研修会もさらに充実させる。</p>

令和2年度 福井県立美方高等学校 学校評価書

項目	重点目標	具体的取り組み	成果と課題	改善策・向上策
	・自ら課題を発見し主体的・協働的に探究する力の育成を図る。	②総合的な探究[学習]の時間「論考」における探究活動の指導を充実させる。	論考の探究活動に生徒を「積極的に」、または「おおむね積極的に」取り組ませることができた1・2年生担任の割合は100%（目標90%）であった。論考の探究活動に「積極的に」、または「おおむね積極的に」取り組んだ1・2年生の割合は92%（目標90%）であった。1・2年生とも、自らの興味関心に基づく課題探究活動に主体的に協力して取り組む様子が見られた。中学生や役場職員、大学教授など外部講師を何度も招いたり、校外への発表会も複数回実施したことも探究の質を高める機会となった。課題としては、探究や発表のまとめの時間確保のために教科の授業時間を多く使用したことがあげられる。来年度以降、より見通しをもった探究学習計画を立てる必要がある。	来年度以降、探究の時間がほぼ週2時間設定される。それぞれの生徒がより主体的な探究学習が展開できるよう、個に寄り添った支援がより求められる。教員間での連携が一層求められるため、担任、副担任間での連携、学年間での協力体制の充実に努めてきたい。
保健管理 安全管理	・生徒の健康管理、健康教育を推進する。	①保健部LTや保健委員会活動などを充実させ、健康管理意識を高める。	「心のLT」（助産師による「いのちの誕生」についての講演）、「保健だより」（新型コロナウイルス感染症対策・熱中症対策）を通して、心身の健康について関心が「高まった」または「おおむね高まった」とする回答が昨年同様90%となり、目標（90%）を達成することができた。 健康管理については、健康に気をつけた生活が「常にできている」、または「おおむねできている」とする回答が、生徒95%と昨年度の94%とほぼ同じであり、目標値（90%）を達成した。保護者は94%と昨年度の88%を上回り、目標値（90%）を達成した。	「心のLT」や「保健だより」を通して心身の健康に関心を持つ生徒の割合は、目標を達成している。今後も ST・LTの時間や「総合的な探究の時間」を利用し、心身の健康について考える時間を確保していきたい。また、内容や講師の選定などは、学年会・指導部・体育科と連携を密にして、指導を充実させていきたい。 今年度は、新型コロナウイルス対策で、「保健部LT」「救急法講習会」「薬物乱用防止講話」が残念ながら実施できなかった。 新型コロナウイルス感染症が拡大する中、生徒・教職員で危機意識を共有して、感染症予防を実践している。今後しばらくも安心できない状況が続くが、感染症に対する情報を日々更新して、生徒・教職員全体でできる限りの対策を行ってきたい。 健康観察、消毒液の管理、換気等において、教員の指導・生徒同士の呼びかけが健康管理意識の向上につながった。また、これらの場面で保健委員がリーダーシップをとることが多かった。保健指導をより充実させるとともに、保健委員会活動をより活性化させ、生徒の健康管理への意識向上に努めたい。
	・環境美化を推進し、安全管理を徹底する。	②整美・保健委員会の活動や清掃活動を充実させ、勤労意欲と安全意識の向上に努める。	生徒の毎日の清掃活動に「積極的に取り組んだ」、または「おおむね積極的に取り組んだ」とする回答は97%と、昨年94%を上回り、目標（90%）を達成することができた。教職員が積極的に清掃活動に取り組むように「常に指導した」または「おおむね指導できた」とする回答は97%で、昨年度94%を上回り、目標（90%）を達成した。生徒の環境美化に対する意識や活動は高い水準を維持している。 安全管理については、安全に気をつけた生活が「常にできている」または「おおむねできている」とする回答は、生徒99%（昨年度99%）、保護者99%（昨年度99%）で、いずれも目標（90%）を達成した。教職員については「危険等を予測し徹底して点検している」または「危険等を意識し点検している」が100%（昨年度97%）となり、今年度の目標（90%）を達成することができた。	清掃への取り組みについては高い結果が出たが、「主体的に取り組む」という点ではまだ十分とは言えない。清掃方法の指導や委員会活動を充実させ、生徒が主体的に清掃活動に取り組むことに力を入れていきたい。 今年度、コロナ感染症対策としてトイレ掃除に使い捨て手袋を使ったところ、清掃活動がスムーズになった。今後も、清掃監督や清掃担当生徒の声を聞いて、校内の各場所に適した道具等を整えることで、効率的で効果的な清掃を進めていきたい。また、教員対象の安全点検（月1回）、生徒対象の安全点検（年1回）を継続し、教員・生徒の安全意識の向上に努めたい。
図書整備 情報管理	・生徒により多くの書物を読ませ、広い視野と豊かな心を育む。	①書物に接する機会を増やし、貸し出し冊数の増加を図る。	本年度に図書室を5回以上利用した生徒は49%（目標70%）であった。1月15日現在の図書室利用件数は211件、生徒貸出冊数は1,666冊（1人当たり3.4冊）であり、昨年度の同時期に比べて減少しているが、コロナ感染症で休校期間であった4月、5月を除いて比べると増えていることがわかった。今年度は特に1年生の貸出冊数が多く、昨年度の2倍近く増えた。 図書室に読みたい本が「充実している」「おおむね充実している」と回答した生徒の割合は75%（目標70%）と目標を達成した。 授業・LT・ST等を利用した読書指導が、「十分できた」または「必要に応じてできた」と考えている教職員の割合は81%（目標80%）で、目標を達成した。 学校祭や「図書まつり」で行われたイベント企画については昨年以上の参加があり、参加した生徒からは好評であった。特に、今年度は学校祭での企画を2日間開催したところ、多くの生徒が図書室に訪れた。 国語の授業や読書LT、図書情報委員会企画による読書活動推進を行っているが、図書室利用や貸出冊数は、なかなか目標に達しない。	入学当初の図書オリエンテーションにおいて、図書室利用や読書活動について十分に理解させ、授業での読書指導やLT、図書情報委員会活動（図書だより発行など）を通して、生徒が読書活動をする機会を増やしていきたい。 図書室の蔵書については生徒の希望や話題の本などを取り入れるなどして充実させ、「図書まつり」などのイベント企画、学科や部活動と連携しての文化的な企画なども取り入れ、図書室の利用促進につなげたい。
	・情報収集や情報提供を円滑に行い、情報発信の支援をする。	②ICT環境の整備・利用促進を図る。	授業やホーム経営、校務分掌の業務を行うためのICT環境（ハード・ソフト両面）に、「満足している」または「おおむね満足している」とする教職員の割合は84%（目標80%）で、目標を達成した。一昨年度に普通教室に導入されたICT機器は、授業などで頻繁に活用されている。 今年度は、コロナ感染症対策として、リモート用機器を購入し、始業式や終業式、学校祭や生徒会活動等で活用された。また、1人1台タブレットの導入がなされたが、接続環境や活用方法については今後検討していく必要がある。	今年度導入されたタブレットの活用環境や活用方法について、使用しながら、問題点があれば、その都度改善していきたい。 演習室や特別教室のICT整備については、まだ一部不十分であるので、暗幕の設置を含めて引き続き要望していく。

令和2年度 福井県立美方高等学校 学校評価書

項目	重点目標	具体的取り組み	成果と課題	改善策・向上策
		③ 生徒・保護者や地域への情報発信を支援する。	校内の情報資源を活用して美方高校の魅力を発信することが「十分にできた」または「必要に応じてできた」とする教職員の割合は88%（目標80%）で目標を達成した。教職員の全体で情報発信することができた。 また、現在のホームページは見にくいという意見もあり、今年度から更新作業に入った。生徒や保護者だけでなく、中学生などに魅力のあるものにしていくことが課題である。	本校の魅力を発信するために必要な視聴覚機材の管理、データの収集、情報資源を整理することに努め、なお一層情報発信しやすい環境を整えていきたい。 ホームページについては、できるだけ早く新しいものに変更し、魅力ある情報を発信したい。そのために、各部、学年会、部活動など、それぞれにおいて、迅速に情報発信できるシステムを作りたい。
開かれた学校づくり	・PTA活動を充実発展させ、教職員と保護者との連携を深め、生徒の健全な育成に努める。	① 即応性のある連絡や学校の情報発信を行い、PTA関連行事や学校行事への保護者の参加数を増やす。	今年度は新型コロナウイルス対策のために、例年とは異なり、学校行事への参加をある程度制限せざるを得なかった。したがって本項目の判断基準について、昨年のA「5回以上参加している」から「4回以上」に、B「2回～4回は参加している」から「2回～3回」にそれぞれ変更した。A・B合わせて約72%と、目標（80%）を下回ったものの、昨今の社会情勢を考慮すれば、やむを得ない面がある。「一度も参加したことがない」も約5%だが、県外及び嶺北出身者が約5%であることが影響していると考えられる。ただ、学期末の保護者懇談会への参加は1・2学期とも95%以上であり、満足すべき数値である。今後は開催方法や周知手段、開催時期などを検討して改善すべき部分は改善していきたい。 行事への満足度については、「満足できる」または「おおむね満足できる」が93%と目標（85%）を上回った。	今後も参加者が増えるように、日時や内容について再検討する。また、案内方法についても、紙面でのお知らせや緊急連絡メールの他に、ホームページ掲載やPTA理事からの呼びかけなどを行う。
		② 広報誌「湖声」を年4回発行し、保護者の学校への関心を高める。	PTA広報誌「湖声」については、A「読んでいる」・B「時々読んでいる」を合わせて86%と、昨年とほぼ同様の数値で目標（90%）を下回った。特に第1学年で80%となっており、どの学年の保護者にも積極的に読んでもらえるような工夫を考えたい。 また、「湖声」によってPTA活動や学校の様子がA「分かる」・B「おおむね分かる」を合わせると96%と目標（90%）を上回った。「湖声」がPTA活動や学校の様子を知ることに役立っていることが分かる。	「湖声」を紙面上だけでなく、ホームページ上に掲載するなどして、読んでもらう機会を広げる。また、生徒の活動やPTA活動の様子が保護者に伝わるように、引き続き紙面の充実にも努め、学校への関心を高められるようにする。
家庭学科	・専門教科に関する知識・技術と探究心を培い、社会の中で生かす実践的態度の育成に努める。	① 専門教科の学習に関心をもち、各種検定やコンクールなどに意欲的に取り組ませる。	専門教科に対して、「意欲的に取り組むことができた」・「おおむね意欲的に取り組むことができた」をあわせて96%と目標（90%）を上回ることができた。大半の生徒が、専門教科に対して意欲的に取り組んでいることが分かった。	「意欲的に取り組めた」の回答が増えるよう、今後も各科で教材研究や指導方法を工夫していく。また、割合としては少ないものの、「あまり意欲的に取り組むことができなかった」と回答した生徒もいることから、生徒への個別対応にも力を入れていきたい。
	・学科の特色ある活動を展開し、地域との連携を深める。	② 校外活動を通して、積極的に地域と関わることでできる生徒を育てる。	（今年度は新型コロナウイルスの影響により、地域でのイベント等が実施できなかったため、アンケートは実施しなかった）	
業務改善	・ICT活用による業務の効率化を図る。	ICT等を有効に活用し、業務の効率化を図る。	「できている」「おおむねできている」をあわせて100%（昨年度83%）と、高い数値になった。普通教室のICT設備設置により、授業で教員用タブレットが大いに活用されていること、校務支援システムの更新によって事務処理時間が短縮された部分もあることなどが理由として考えられる。	今年度GIGAスクール事業が急ピッチで進められ、来年度から本格的にそれらを活用し、授業を進めていくことになった。タブレットの有効活用により授業の充実はもとより教職員の業務のさらなる効率化を進めていきたい。
	・行事の精選・内容の見直しを図る。	行事、およびその内容を精選し、業務の短縮を図る。	「できている」「おおむねできている」をあわせて97%（昨年度42%）であった。4月5月のコロナによる休校とその後のコロナ禍での行事や大会等の縮小や中止があったため業務短縮の意識が多くの教職員の中に浸透してきた。やらなくてよいことはやらないでよいという考え方も浸透していると考えられる。しかし、多くの業務に追われ実感として業務の短縮が進んでいないと感じる教職員がいるのも考慮すべき点である。	年度末に次年度年間行事計画を検討する際、行事の精選・内容の見直しを十分に行う。来年度もコロナ禍での教育活動が予想されるため、積極的なオンライン活用をして出張数を削減していく。また、教育課程では35単位の授業単位数を3年度に34時間、4年度に33時間にして生徒の負担はもちろん教員の負担も軽減していく。校務分掌での業務の精選も推進していく。
	・部活動の負担軽減を図る。	外部との連携を進め、部活動指導の負担軽減を図る。	「できている」「おおむねできている」をあわせて97%（昨年度58%）であった。部活動指導員制度では、卓球、バレー、ソフトの3つの部活動で活用した。また、外部指導者がボート部と硬式野球部に応援に来てくれている。技術指導を中心に行っていただくことで、部員の技術力向上、顧問の負担軽減につながっている。	部活動指導員や外部指導者には引き続き指導をお願いしていく。部活動指導員の活用をより多くの部活動で活用できるように県に要望していく。また部活動の削減（今年度「理数研究部」来年度「書道部」「放送部」）で顧問数にゆとりを持たせたり、部活動1つに必ず2名以上の顧問を配置し交代制をとったりすることで負担を軽減させていきたい。